

# ひだまり

2017.3  
Vol.8



## 春の壁面制作

ひだまり江刺岩谷堂児童課

## 共に成長



理事長  
高橋 洋子

常日頃皆様には、ご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

卒業式そして入学式、別れと新たな出会いの季節となりました。高校を卒業し、四月からは、社会人として出発する方もいます。卒業そして入学する皆さん、おめでとうございます。

先日、理事長と懇談の機会ということでお茶会を開催しました。平成十八年のひだまりができた当時の思い出を話してくださいましたご家族の方がいました。私も知らなかった当時のエピソードを聞き、思わず涙が出そうになりました。開所式後の写真撮影の場に入れない彼に無理やり入ってではなく、「入れないなら私たちが近くに行けば良いんじゃない？」と周りのお母さん方の一言で、彼の近くに皆が寄っての写真撮影だったことを今更ながら知りました。当時小学校二年生だった彼が、恥ずかしそうにしながら写った開所式の写真は、今でもひだまりの思い出の一枚となっております。

あれから十一年。彼は、今年高校を卒業し四月からは立派な社会人です。

十一年という年月は、長いようであつたという間でした。彼を支えたご家族のご苦労は大変なものだったと思います。もちろん彼自身も、不安やいろんな葛藤を抱えながらも、頑張ってきたことと思います。小学生、中学生、高校生と大事なこの時期の成長の姿を家族と共に私たちは見守ることができたこと、非常に嬉しく思います。放課後等デイサービスは放課後や長期休みの間わりではありませんが、長期に渡りご家族に寄り添い、共に悩み、励まし合いながら、利用者さんの成長を見守る大切な仕事であり、非常にやりがいのある仕事だと改めて感じております。

利用者さんが学校を卒業し巣立っていく姿は、嬉しくもあり、どこか寂しさを感じる今日この頃です。学校卒業後も、私たちは様々な形で利用者さんそしてご家族をサポートしていきます。卒業後も切れ目なくサポートできる形について、今後も法人の課題として検討して参ります。

## お茶会開催



今年度は、放課後等デイサービス評価表の集計結果の公表も兼ね、事業所懇談会を各事業所毎に二回実施しました。保護者の方から寄せられた要望の一つとして、理事長との懇談の場が欲しいという声がありました。それをうけまして、平成二十九年二月二十五日（土）水沢地区センターにて、理事長と懇談する場として「お茶会」を開催しました。

総勢十一名の参加でした。このお茶会の目的として二つ掲げ、一つは、ご家族の声を聴き、今後の法人運営に活かすこと、もう一つは、語り場としました。自己紹介では、出身地、最近嬉しかったこと・困っていることなどを話して頂き、利用者さんの成長についても知ることができました。また、広域的な課題も見え、何とか力になれる方法を模索していきたいと考えております。

次年度は各地域を回りながら、お茶会を開催していきたいと思っております。



# 相談支援事業所ひだまり北上 開設しました

北上市に平成二十九年一月一日付けで「相談支援事業所ひだまり北上」が開設されました。岩手ひだまり会が北上市で運営する事業所は、放課後等デイサービス「ひだまり北上中央」「ひだまり北上にこっと」と合わせて三か所になりました。障がい児・者、家族、地域住民の総合的な相談支援に努めていきます。

障がい児・者が置かれている環境は個々様々ですが、北上市での一年余の放課後等デイサービス・日中一時支援事業の運営を通じて、保護者、家族は困難を抱えながら日々、立ち向かっている姿に感銘するとともに、中には困難を超えた状況にあると思われる姿も目にします。

支援が必要な障がい児・者への対応窓口は相当数整備され、当事業所もその一つになるわけですが、困難な事例を前にどこからどのように絡まった糸を解きほぐしていけばいいのか思案をめぐらせるばかりで、知力も技量も経験も体力（体制）も、そして何よりも立ち向かう意欲がまだまだだと自覚します。

ひだまり会の相談支援事業所は奥州市のみでしたので利用者におかけしていた不

は解消できることになりました。これからも相談者・利用者にはしっかり向き合い、不足なところは関係事業者等との連携や協力で補ってもらいながら、地域の問題に的確に対応できるよう充実を図っていきたいと考えています。

## 相談員紹介



相談支援専門員

きくち まゆみ  
菊池 真弓

## ひだまり北上中央 活動の様子

ひだまり北上中央の子どもたちは、読み聞かせが大好きです。「今日は、なんの紙芝居を読んでくれるの?」と学校から帰って来るとすぐに聞いてきます。今日の予定をしっかりと把握しているんです。

最近、正月や節分などの行事の成り立ちを教えてくれる内容の物語を読んでもらうと、とても真剣に興味深く、しゅんとし

て瞬きもせず聞いてくれる様子を見ながら職員も聞き入ってしまっています。読む職員の技術がどんどん上がってきました。

紙芝居だけではなく、近くにある図書館に子どもたちと行き、好きな本を借りてきます。幼児の背丈ほどの長さの「100階立ての家」や、A4サイズ二枚合わせた大きさの大きな図鑑のような本、職業自動車、列車の本など自分たちが選んだ本をひとりで静かに読んだり、友達同士で仲良く楽しそうに見ている姿は、年齢層の幅があっても、とてもほほえましい限りです。

新しい発見、たくさんを知る読み聞かせ、本を読む環境を整えて、情緒豊かな子どもになってほしいです。

(児童発達支援管理責任者 小野寺 幸子)







挨拶を行う  
高橋洋子理事長



開会の宣言を行う  
千葉昭好研修委員長



総評を行う  
向山晃広報・研修担当理事

## 一人一研究発表会開催

二月二十七日（月）水沢南地区センターにおいて、岩手ひだまり会全職員が参加し、一人一研究発表会を行っております。テーマは業務に関わる事の中から自由選択になっており、それぞれが設定した研究の成果を発表しております。

一人一研究発表会は、職員一人一人が業務の中での気づきを大切にしており、課題などを研究することで、職員の資質向上と、よりよい支援につながる事を目的として行われております。また、全職員が研修の場で発表することによりその成果を評価し、共有することで、岩手ひだまり会全体の事業発展につながる事を目的に行っており、今年で五年目を迎えております。

はじめに、千葉昭好研修委員長が開会の宣言を行い、高橋洋子理事長からの挨拶を頂き、各事業所の管理者より推薦された十名が研究の成果を発表しております。発表の後、質疑応答に移り活発な討論が行われております。

向山晃広報・研修担当理事が総評を頂いた後、高橋洋子理事長が開会の挨拶を頂き、研修会は閉会となっております。

今回の発表会では、腹式呼吸を取り上げ検証したり、パワーポイントの中に動画を盛り込むなど、今後の支援につながる内容が分かりやすく紹介されており、更なる改善や向上につながる事が期待されます。この発表会で学んだことを全職員の資質の向上につなげ、支援に役立ててまいります。職員の皆様ご苦勞様でした。

### ◆一人一研究発表者◆

法人本部鈴木佳奈主事補

「産前産後・育児休業について」

水沢森下生活介護課越田徳子支援員

「知的障がいの子どもの加齢における現状と課題」

水沢森下児童課菅原俊也指導員

「知覚認知トレーニングについて」

水沢駅東福山博美指導員

「利用者との関わりについて」

水沢横町・相談千田一輝相談員補助員

「支援における『ゲームトーク』の有効性に関する一考察」

北上中央・相談佐藤清光指導員

「『食』に関わる実践を通して」

江刺桜木千葉正行指導員

「Tさんが衣服の前後や表裏を理解するためには」

江刺岩谷堂児童課・就労課佐々木奈緒子指導員

「一斉片付けを取り入れてみて」

江刺第二桜木小原美佐子指導員

「プラダ・ウィリー症候群児の支援」

北上にこっと吉家登美子児童発達支援管理責任者

「リラックス状態に導くための方法（腹式呼吸）」

# TEACCH発表会

今年度は、質の高いサービスが提供できるような様々な研修に参加し、職員の専門性を高める取り組みに力を入れてきました。

一月十五日に行われた「TEACCHプログラム研究会東京支部勉強会基礎講座」には、各事業所から一名ずつが参加し、自閉症支援についての基礎的な知識の習得に努めました。自閉症の人たちの情報処理の方法や独自性をどのように評価するのか、またコミュニケーションにはどのような配慮が必要か等、実践例を基に大切なポイントを学ぶ事ができました。構造化においては既に事業所で実践しておりますが、課題も見つかり、指導員・支援員としてまだまだ未熟であること



を痛感しました。

二月九日には、

法人本部地域交流室にてTEACCH発表会が行われ研修を通して学んだこと、今後活かしていきたいことを理事長、常務理

事、各事業所所長等に報告しました。各事業所での支援方法や活動の取り組み方を知ることができ、刺激を受けました。それぞれの良い面を見習い、研鑽を重ねることで法人全体の支援の質の向上に繋げていけたらと思います。

研修参加者は事業所の職員に伝達し、統一した支援を行っていく必要があります。利用者さん一人一人に合わせた支援を行い過ぎしやすい環境を整えていきたいと思えます。また、ポジティブな面に着目し『出来ることを伸ばす支援』を心掛け、利用者さんと共に職員も成長出来るよう努めていきたいと思えます。

より良い支援を行っていく上で、関係機関、保護者の方々との連携は重要になります。今後ともご協力をお願い致します。

## 【TEACCHプログラムとは】

自閉症などコミュニケーションに障がいのある子ども達やその家族への包括的対策プログラムの名称です。不適切行動に焦点を当てるのではなく、適切な技能を発達させることを強調しています。

## 支援ツールの紹介

TEACCH発表会で報告された支援ツールの紹介をします。



### 【洋服のたたみ方】

服を絵の枠内に合わせて広げ、①～③の順番通りにたたみます。「特別支援教育簡単手作り教材Book」参考



### 【自立課題選択シート】

シートの中から取り組む事を選び、自己選択する機会を増やしています。スケジュールを立てる際もシートを見ながら自分で記入しています。



宮城県

平成二十八年年度

役員視察研修

去る、二月十二日・十三日に宮城県仙台市太白区にある特定非営利活動法人ワークーズコープ「みんなのおうち太白だんだん」さんを視察させて頂きました。

「みんなのおうち太白だんだん」さんは、「共生型福祉施設」の運営を行っております。事業内容は、放課後等デイサービス事業、小規模保育事業、就労支援事業、高齢者デイサービス事業、カフェ、マルシェといった複数の事業を同じ建物内で展開しております。視察当日には、カフェで提供しているランチを頂きました。



今回の視察で得た多くの知識を、今後の法人発展に活かして参りたいと思います。「みんなのおうち太白だんだん」の皆様、お忙しい中対応頂き、誠にありがとうございました。



花粉症について



## 保健だより

県内のインフルエンザ患者数は減少傾向となっておりますが、春の到来とともに今度は花粉症の季節がやってきます。もうすでに花粉症の症状が現れてきている方もいるかと思えます。くしゃみ・鼻水・目のかゆみ等、二〜三カ月間辛い思いをする方も多いのではないのでしょうか。花粉症は、インフルエンザ・風邪の初期症状と症状が似ているため、見分けがつきにくいです。

いずれの場合も医療機関から処方される薬により症状の改善が期待されますので、早めの受診を心掛けましょう。

また、アレルギーとなる花粉との接触を出来る限り避けることが、花粉症対策の基本となります。すでに発症している方は、**正しい情報**を集めて花粉との接触を避ける工夫が必要です。

病院での治療の他、セルフケアも重要になってきます。

## 保護者会より

保護者会長 伊藤 恵美

何時も、保護者会の活動にご理解ご協力頂きましてありがとうございます。

今年度も残りわずかとなりました。沢山の方々にお会いすることが出来、大変嬉しく思っています。

バス遠足では、本当に沢山の人に参加して頂きました。みんなの笑顔を見て、やっけて良かったと思える行事だと自負しております。来年度は仙台の海の杜水族館に行き阿部の蒲鉾店でお昼を食べながらお土産を買って帰ろうかと計画を立てております。是非、お手紙チェックをお忘れなく。

又、先日、親だけの夜の懇親会を行い、水沢、江刺、北上の全地区からいつもの方久しぶりの方、初めての方と参加していただきました。本当にただただ楽しい懇親会でした。これも大事な保護者会の活動だと思っております。親、家族が元気で笑顔でいないと障がいあるなしに関わらず、子育ては出来ません。

楽し思い出をこれからもたくさん作れるよう活動していきます。又、やり残した事として、「性の問題の勉強会」「ヨガ教室の定期開催」など、来年度には早いうちに開催したいと思っております。

そして、来年度の活動として五月の甚句祭りの参加要請の手紙が既に届いており、参加の方向で検討しております。祭りにする遠足にしろ、来年度の活動が地味に始まっております。これからも時間の許す限り保護者会の活動に参加して頂ければ本当に嬉しいです。どうぞ、これからも宜しくお願い致します。

### 〇保護者より

「十一年間の感謝を込めて」

菊地 都



思えば十一年の歳月が、お陰様で巣立ちの時を迎えるまでになりました。孫達と同じ居したら、賑やかで明るい暮らしが待っている。隣に住む孫達とも交流でき楽しみが倍増だ。と東京から転入させた。早速行動開始するも、愚かさを痛感させられる現実が待っていた。さらに行政関係の窓口では想定外の課題が容赦なく打ち寄せてくる。時間は止まってくれない。その時、四月から開設する「NPO法人地域ふれあいステーションひだまり」を知る事になり連絡を取ってもらい、予約を入れた。継る思いだった。安堵した。その内、新学期がスタート。すぐさま問題行動を繰り返した。その都度、関わる職員の指導が欠かせない。振り返る余裕もない。そんな中、ひだまりの職員さんと親子が集える日が設けられた。

呼び掛けで寄り添い話し合い、誘い合える繋がりを持つた。和やかな時間が流れ、折角だから写真を撮ろうと集まったものの孫は隅から離れない。その様子が一人のお母さんが、こっそりと「皆がケイジ君の方に移動しようよ」と、その声で力二の横歩きが始まり大移動が成功し、カメラはパチリ。最高の記念撮影が達成した。瞬間、これが「ひだまり」なんだと、改めて若いお母さん達の笑顔の貴重な勉強会を実感した。以来、孫育ての資料として心に刻む事になるのでは。こうして全てを受け入れて頂いたひだまりのお陰で、高等部三年になった途端、十年間で培った積み重ねに開花したかの様に、我慢や集中力が実り、物作りを完成させる喜びを味わい、自信をつけさせてもらいました。そして卒業の時を迎え四月からは「フワフワセンターあいこ」で頑張って働いてもらいたいと願うばかりでございます。

最後に、雨の日も吹雪の日にも、家族に代わり学校への送迎を安全に行って下さったひだまりが、非常にありがたく思います。十一年分の思いはとも書き尽せるものではありませんが、本当に心から感謝申し上げます。いつまでも必要とする家族の為、頼られるひだまりさんで居て下さいませ、ご期待申し上げ失礼致します。





## 「東京だより」



広報・研修担当理事  
向山 晃

日本の障がい福祉が「施設入所」から「地域生活」を重点化していくという。時代の変革は、昭和の後半に訪れた。

時代の先端に東京があったのは、事実だが、理念が有って時代を創っていった訳でなく、土地代が高いために入所施設が建設出来なかったのが、仕方なくグループホーム（当時は生活寮と言った）という小規模施設処遇を、せざるを得なかった事業が「地域生活」という時代の原点を結果として生み出したとも言える。私は当時、たまたま時代の流れの先頭にいると言われた東京の現場だったので「利用性」と「社会」との接点でいくつかの「面白い」と言われるエピソードを経験した。

そこには、整備されない中で時代の流れの中でいくつかの予備や無理をはらみながらの時代と言える。

これから五回程「東京物語」を紹介していきたいと思う。

東京の三大祭といわれるのは「浅草」「神田」「深川」である。そのころちよと、深川神社から三百メートル位の所に住んでいた。二年前に一回の大祭には利用生と一緒に町会のみこしを担いだ。「神輿」は井型にくまれた四本の長い棒を担ぐわけだが、前にあたる棒の一人が「お先棒」と言われる貴重な位置であることをあとで教えられた。午前中に出発した「神輿」は、午後の四時位まで三十か所くらいの町内をまわり、「深川神社」に戻るわけだが、私の住む通勤寮の町内に入ると、カシラといわれる人から、「おい寮長の場所だよ」と言われた。慣例として自分の町内に入ると、その町会は、ボスが「お先棒」を担ぐしきたりになっているとのこと。


後で聞くと何百人の人が「みこし」を担いで、「お先棒」の一人が舵取りになって、右にも左にも行く事が出来るそうなのである。「お先棒」を担がせてもらう事は、その地域から認知されることも、その時知って嬉しかったことを今でも覚えている。



## 編集後記

春休みに入り、子どもたちは入学・卒業・進級と新しい門出の準備で、新たな事に対する期待と不安が募っていることと思います。第八回広報ひだまりは、理事長の挨拶や一人一研究発表会等紹介しました。来年度も、宜しくお願い致します。（千葉）

発行・編集 社会福祉法人岩手ひだまり会  
広報委員会  
印刷 有限会社江刺プリント社

岩手ひだまり会法人本部  
住所 〒023-0828  
奥州市水沢区東大通り二丁目 4 番 3 号  
TEL : 0197-47-4222 FAX : 0197-47-4223  
URL : <http://ousyu-hidamari.or.jp>  
ホームページ検索  
『社会福祉法人岩手ひだまり会』を  クリック